

女學生の保母觀

森 協 要

この調査は女學生が保母とゆう職業をどう考えているか、卒業後保母になる事を希望しているかどうかを調べようとしたものである。

先ず女學生は卒業後就職を望んでいであらうか、私の調査では六〇%の者が就職を希望している。その就職希望の理由は、その主なものは大別して四つに分けられる。經濟的理由、修養のため、道德的義務、自己の力を發揮する爲である。經濟的理由は全體の四一%であるが、その中では經濟的獨立を得るためというのが一番多く、家計の助けがこれに依つてゐる。修養のためは三五%で、その中で社會を深く知るためとゆうのが壓倒的に多く、健全な社會人になる、自己の修養向上がこれに次いでゐる。道德的義務は約七%で、男女同權である故に女性も亦働くべきであるという考えが一番多く、國家再建の爲とゆうのがこれに依つてゐる。自己の力を發揮するためとゆうのは約七%である。

次に就職したくないものに、その理由を聞いて見る。この場合は、就職希望の者が就職に積極的な意義を認め、その積極面を強張しているに對して、就職を希望しない者は、就職

に伴う消極的な面を強調している事が著しく對照的である。その理由の主なものを持たれば、女の仕事がおろそかになるとか、よき家庭婦人になるために役に立たない、或は却つて害があると考えられる方が、就職不希望の理由の中で一番多くて約二〇%を占めてゐる。第二の理由は現實社會は亂れており、職場の環境は悪く、職業婦人に好感を持たぬ故に、かゝるところで働きたくないと考えるもので約十六%、家の手助けをするものが十二%、次は學生生活は時間にしばられた多忙な生活であつたため、卒業後は時間にしばられず、家で落付いて人生を樂みたいと考える者で約十一%である。其の他性格が向かない、更に學問がしたい、親が反對する、身體が弱い等の理由があげられてゐる。

次にどうゆう仕事に就きたいか、その就きたい職業を調べて見るに(一)技術的職業が一番多く約十六%でその中洋裁が壓倒的に多く、タイプがこれに依つてゐる。(二)は會社の事務で約十%、次は教職員(保母を含む)で約七%、その中保母志望は二・六%である。(三)出版、放送等ジャーナリズム志望が約四%、(五)醫療關係が二・六%で、この中保健

婦、看護婦が合計〇・四％、榮養士は〇・二％である。これに(六)研究事務、(七)藝術(音楽、童話、作家)、(八)通譯(翻譯)、(九)社會事業等これに續き、社會事業は〇・六％である。

保母志望は二・六％で非常に少ない様であるが看護婦の〇・四％、榮養士の〇・二％に比較すれば、はるかに多いと言わねばならぬ。

次にそれ／＼の職業を志望する理由を尋ねて見る。例を洋裁を希望したものとれば、女性に適している、身につく、將來生活のためになる、興味がある等の理由があげられ、自分に適していると答えたものは一人にすぎない。職業選擇に適性を考える考え方は、女性に適すと云う答の中に若干は伺えるが、自己に適性か否かの自覺は非常に少ない。ましてこの職業の社會的意義に對する自覺は殆どなく、自己中心に職業を選んでいると云うべきである。これに對して保母志望の者の理由は、小さい子供が好きが壓倒的に多く、純眞な子供を正しく教えたい、社會に奉仕出来る等の理由が少しある。適性の觀念はこゝにも見られないが、その社會的意義、社會奉仕の觀念が見られる。しかしその自覺は未だ低い。これに對して教員を希望するもの理由は、子供を正しく導きたいが壓倒的に多く自分の勉強になる、國家再建に役立つ等の理由も見られ、職業的自覺の程度が保母志望のものよりも多い點は注目に値しよう。

貴方は何になりたいですかと聞かれて、保母と答へた者は

既にのべた如く二・六％であるが、これは第一義的に保母を希望しているものである。これに對して、「貴方は保母になりたいですか」という質問に對して「はい」と答へたものは約二十％ある。これは積極的に保母になりたいと云う程でないが、保母になつてもよいとゆう保母シンプであると言えよう、したがつて指導よろしきを得れば保母に養成する事の可能性のある人達である。これに對して「保母になりたくない」と積極的に否定したものは約八十％あり、その數値から伺へば、保母は一應あまり評判はよくないとも考えられようか。保母が若い女性にとつて、あまりアトラクティブでない理由は一應反省の必要があると考えられる。

保母になつてもよいと考える人達の、その理由を分析して見ると、子供が好きだからと云うのが約半分、子供を正しく導きたいというのが約三五％で、この二つが主な理由となつている。こゝでも尙職業的自覺の貧困が伺える。

保母になりたくないと答えた人達の理由は何であるるか、これ等は大別して三つの種類に分類することが出来る。その一つは積極的に保母或は子供が嫌いであるために保母になりたくない者が約四十％を占めている。この中子供が嫌いだからと答へたものが三五％もいる、(子供が嫌い、三五％保母が嫌い、四％、計約四〇％)これは注目に値する數値である。一般に女性に本能的に子供が好きであると考えられ、母性は女性の本性、或は本能であると考えられていた。しかしこの通俗の觀念は改められなければならないであろう。女性

の上に母性を壓しつけていた壓迫が取りのぞかれた、解放された女性は三五%も聲を大きくして子供は嫌いであると叫んでいるのである。母性は本能ではなく、これは教育の結果であるかも知れない事が暗示されている。

第二の種類のは全く中性的なもので保母に興味の持てないもので約七%ある。第三の種類のは消極的な理由で、積極的に保母になりたくないと言ふよりも保育者としての資格が自らにないと思ふ内向的な性格である。これが保母になりたくない者の約五十%を占めてゐる。この内容を示せば性格が向かぬ、自信ない、取扱いが下手、體が續かない、忍耐力がない、自分の人格が出来ていない等である。これらの種類に屬するものは、第一や第二の種類のに屬するものと異つて、指導し、激勵することによつて、保母志望にも向わしめる事の可能性あるものである。潜在的或は可能的保母志望者とも呼ぶことが出来るか、かくて保母になつてもよいと云うもの二〇% (保母になりたくない者八〇%の中可能的保母志望者五〇%)、それ故可能的保母志望者は全體の四〇%)を合せて全體の六〇%は指導よろしきを得れば保母になし得る人達という甚だ保母養成の爲には樂觀すべき數値を示している。

次に幼稚園保母と保育所保母とどちらを擇ぶかと聞いたのに對し、幼稚園保母を擇ぶもの約廿八%、保育所保母約八% (他は無記)となつて幼稚園保母の方に多くの希望のある事を示している。

では幼稚園なり、保育所なりを擇んだ理由は何であるか、

先ず幼稚園を擇んだ理由を調べて見るに、扱い易い(六五%)設備がよい(廿七%)、教育的(八%)となり、大體に於て幼稚園の方が樂であるために擇ばれており、幼稚園がその第一の特徴として誇つてゐる教育的であるということを、その理由としてあげてゐるものが八%しかない事は心細い限りである。

これに對し、保育所を擇んだ者の、理由は、小さい子供に興味がある(二六%)、階級が異り興味がある(一八%)、社會奉仕の爲(一八%)、仕事にしがいがいい(一八%)、貧しい子にながさめたい(一五%)等となり、保育所の子供の方が取扱ひに困難な事は充分承知の上で、さればこそその仕事はやりがいがあるといさみ進まんとする氣迫が見えて、一層たのしい人達であると言ふようか。それだけに、これ等の人達が現實に保育所に進んだ時そこに待ちもっている現實を考え、保育所全般について一層の改善を望むものである。

(この調査は昭和二十三年二月に都市、田舎の舊制女學校八校の五年生四六六名についての調査したものである。)

(三五頁より) ずあることを痛感している。われわれの共同研究によつて、一層完備充實した「保育要領」にしたいと念願するものである。

(昭三三・一一・二二)